Assetalyze — Portfolio Optimizer

詳細取扱説明書

対象バージョン：1.0.55.0

最終更新：2026 年 10 月 27 日

提供元：Yu Investudy

https://yu-investudy.com/support/assetalyze/ja/manual/

目次

1. はじめに **3**
- 1.1 何をするアプリか . . . 3
- 1.2 最初に理解する 3 つの区別 . . . 4

2. 動作環境 **4**
- 2.1 対象環境 . . . 4
- 2.2 処理量と保存容量 . . . 4

3. インストール **4**
- 3.1 Microsoft Store から使用する . . . 4
- 3.2 製品バージョン . . . 4
- 3.3 更新前の注意 . . . 4

4. Trial 版と購入版 **5**
- 4.1 利用できる範囲 . . . 5
- 4.2 ホームから試す . . . 5
- 4.3 無料 CSV 確認の限界 . . . 5

5. 画面構成 **5**
- 5.1 左側の主要画面 . . . 5
- 5.2 画面内のタブ . . . 5

6. 初回セットアップ **6**
- 6.1 初回の流れ . . . 6
- 6.2 初めての確認には正規デモを使用する . . . 6

7. 計算環境 **6**
- 7.1 自動確認 . . . 6
- 7.2 計算方法 . . . 6
- 7.3 性能設定 . . . 7
- 7.4 個別の診断 . . . 7

8. 基本設定 **7**
- 8.1 資産・データ . . . 7
- 8.2 データモード . . . 8
- 8.3 条件設定へ進む . . . 8

9. 詳細設定 **8**
- 9.1 出力 . . . 8
- 9.2 言語と通貨・外観 . . . 8
- 9.3 メンテナンス . . . 9

10. 資産データ **9**
- 10.1 価格と通貨 . . . 9
- 10.2 現金資産 . . . 9
- 10.3 登録資産を編集・削除する . . . 9
- 10.4 配当・分配金 . . . 9
- 10.5 仮想レバレッジ資産 . . . 10

11. 公開市場データの取得 **10**
- 11.1 対応するデータ . . . 10
- 11.2 取得・再取得の手順 . . . 10
- 11.3 為替・金利の基準データ . . . 10

12. CSV 資産の登録 **11**
- 12.1 入力の準備 . . . 11
- 12.2 登録手順 . . . 11
- 12.3 読込項目 . . . 11
- 12.4 管理コピーと変更検知 . . . 12

13. 分析条件 **12**
13.1 入金と期間 . . . 12
13.2 制約・コスト . . . 12
13.3 指標に含まれる費用・税 . . . 13

14. 最適化条件 **13**
14.1 配分刻み . . . 13
14.2 最適化指標 . . . 13
14.3 単独と総合 . . . 13
14.4 固定配分を試したい場合 . . . 13

15. 分析の実行 **13**
15.1 新しく実行する . . . 13
15.2 停止と再開 . . . 14
15.3 実行ログと終了 . . . 14

16. 結果サマリー **14**
16.1 結果を選ぶ . . . 14
16.2 上部ボタン . . . 14
16.3 ダッシュボードの読み方 . . . 15
16.4 散布図のグラフ詳細 . . . 15
16.5 結果が 0 件の場合 . . . 15

17. 資産推移 **15**
17.1 表示する条件を選ぶ . . . 15
17.2 グラフと指標 . . . 16
17.3 独立した「グラフ詳細」 . . . 16

18. 詳細データ **16**
18.1 表示の選択 . . . 16
18.2 全項目・列・コピー . . . 16
18.3 指標の読み違いを防ぐ . . . 16

19. 配分比較 **17**

20. 結果の保存・レポート **17**
20.1 自動保存される結果 . . . 17
20.2 保存ボタンの違い . . . 17
20.3 概要レポート . . . 17
20.4 共有するとき . . . 17

21. 結果の削除 **17**
21.1 削除範囲 . . . 17
21.2 操作手順 . . . 18
21.3 Windows ごみ箱と安全性 . . . 18
21.4 latest と最後の 1 件 . . . 18

22. 自由配分 **18**
22.1 通常の最適化との違い . . . 18
22.2 「1 配分」でセットを作る . . . 18
22.3 「2 実行」で比較する . . . 19
22.4 「3 資産推移」 . . . 19
22.5 「4 詳細結果」 . . . 19
22.6 保存と評価済み条件 . . . 20

23. 言語・通貨 **20**
23.1 表示言語 . . . 20
23.2 評価通貨 . . . 20
23.3 外観 . . . 20

24. データ保存とバックアップ **20**
24.1 2 種類の保存領域 . . . 20

24.2 主なファイル 21
24.3 latest の意味 21
24.4 設定の自動保存 21
24.5 バックアップ手順 21
24.6 キャッシュ 21

25. Microsoft Store ライセンス **22**
25.1 状態表示 22
25.2 購入・再取得 22
25.3 ネットワーク・キャッシュ 22

26. プライバシー **22**
26.1 PC 内で扱う情報 22
26.2 外部との通信 22
26.3 データの保護と共有 23

27. 注意事項・免責 **23**
27.1 分析の限界 23
27.2 法的情報画面 23

28. トラブルシューティング **23**
28.1 まず記録すること 23
28.2 結果なし状態と障害を区別する 24
28.3 強制終了・初期化を急がない 24

29. アンインストール **24**
29.1 先にバックアップする 24
29.2 残るもの・消えるもの 24
29.3 データも消したい場合 25

30. 用語集 **25**

対象：Microsoft Store 配布版 1.0.55.0 x64 ／日本語版
文書作成日：2026 年 10 月 26 日
仕様基準：Store 最終受入済み Source commit `a949523095fb2a24dca2784fef42e164feb86984`

本書は、上記バージョンの通常画面から使用できる機能を説明します。画面名・ボタン名は日本語表示を基準とします。括弧内の説明は本書の補足です。画面幅、選択中の条件、データの有無によって、表示・有効状態は変わります。

本書は取扱いの説明であり、投資・税務・法的助言、利益や計算結果の保証を行うものではありません。利用条件と免責については、製品の「法的情報」で表示する文書も確認してください。

読み方：初めて使用する方は第 1〜8 章、CSV を持ち込む方は第 10〜14 章、結果を見る方は第 16〜22 章、バックアップ・削除・アンインストールの前には第 21・24・29 章を参照してください。調査根拠と記述対象外の事項は、別冊 `Source_Research_and_Verification_1.0.55.0_JA.md` に記録しています。

1. はじめに

1.1 何をするアプリか

Assetalyze は、資産の価格履歴と、入金・配分・リバランス・費用・税などの仮定を使い、ポートフォリオを比較する Windows デスクトップアプリです。

- **通常の最適化**：選んだ 1〜10 資産について配分候補を評価し、指定した Vol 上限の下で、平均または中央値の最終資産が最大になる候補を選びます。
- **自由配分**：自分で決めた固定配分をセットとして保存し、複数セットを同じ評価年数で比較します。
- **結果表示**：最終資産、XIRR、Vol、最大ドローダウン、資産推移、配分などを表示します。
- **出力**：表の CSV、資産推移 CSV、HTML 概要レポート、グラフ詳細からの PNG 保存を利用できます。

実際の証券口座へ注文する機能ではありません。表示する「最適」は、選択した入力と計算条件の中での評価結果です。将来も最善となることを示しません。

1.2 最初に理解する 3 つの区別

区別	意味
デモ／実データ	デモは架空のデータです。Gold 等の公開データや登録 CSV とは別です。
現在の設定／保存済み結果	設定を変えても、既存結果を新しい条件で再計算したことにはなりません。
登録資産／今回の分析対象	ライブラリへ登録した資産のうち、基本設定でチェックした 1〜10 資産が通常最適化の対象です。自由配分は別途セット内の配分で対象を決めます。

2. 動作環境

2.1 対象環境

1.0.55.0 の配布パッケージは **x64・Windows Desktop** 用です。パッケージが宣言する Windows 最小バージョンは **10.0.26200.0** です。より古い Windows への対応は本書では案内しません。Windows のバージョンと、Microsoft Store に表示されるインストール可否を確認してください。

CPU 計算があり、NVIDIA GPU を利用できる環境では GPU による候補探索も使用できます。GPU の可否は「計算環境」で実際に診断します。NVIDIA GPU があるだけで、ドライバー・実行環境を含む利用条件がすべて満たされるとは限りません。

Store 版は製品用ランタイムを同梱しています。通常の利用者が開発用 Python 環境を作成したり、`pip` で構成を変更したりする手順はありません。

2.2 処理量と保存容量

必要な時間・メモリ・空き容量は、資産数、履歴長、配分刻み、ローリング期間数、出力レベルによって変わります。特に、配分刻みを細かくし、多数の資産を同時に選ぶと候補数が大きく増えます。10 資産・5% 刻みでは候補数は 10,015,005 です。

本書では、Source に固定の製品最低値として定められていない RAM 容量、GPU 型番、処理時間を保証値として示しません。「計算環境」の診断と推奨値を確認してください。

画面はリサイズ・最大化に対応します。Windows 表示倍率 100%・125%・150% では、利用可能な画面領域に合わせて使用してください。小さい画面ではスクロールや表の列ページ送りも使用します。

3. インストール

3.1 Microsoft Store から使用する

1. Microsoft Store で **Assetalyze — Portfolio Optimizer** を開きます。対象製品 ID は `9NDJXCCWG6D2` です。
2. Store に表示される提供条件・利用権・価格を確認して、インストールします。
3. スタートメニューから Assetalyze を起動します。
4. 初回の言語・通貨、法的文書、計算環境の確認へ進みます。

購入・決済は Microsoft Store の画面で行います。本書には価格や返金条件を固定して記載しません。取引時の Store 表示を確認してください。

3.2 製品バージョン

本書の基準は Store パッケージの **1.0.55.0** です。画面に表示される `RC1.275` 等の内部リリース表記は、Store のパッケージバージョンとは別の番号です。

正式な Package Identity Name は `YuInvestudy.AssetalyzePortfolioOptimizer`、Package Family Name（PFN）は `YuInvestudy.AssetalyzePortfolioOptimizer_v52yw7agrk5ve` です。通常利用でこれらを変更する必要はありません。

3.3 更新前の注意

同じ PFN の通常更新と、アンインストール後の再インストールは、データの扱いが異なります。設定・登録情報も必要な場合は、第 24 章の保存先をバックアップしてください。更新や不調への対処として、最初からアンインストールや全データ削除を行わないでください。

4. Trial 版と購入版

4.1 利用できる範囲

操作	期限なしの無料体験範囲	購入済みの有効な利用権
正規の組み込み架空デモを分析する	利用可能	利用可能
正規デモの結果表示・出力・再開	利用可能	利用可能
自分の CSV の互換性を確認する	確認専用で利用可能	利用可能
自分の CSV を資産ライブラリへ登録する	購入が必要	利用可能
実データで分析・再計算する	購入が必要	利用可能
実データの保存結果利用・再開・計算キャッシュ利用	購入が必要	利用可能
公開市場データを取得する	購入が必要	利用可能

無料デモとして扱われるのは、製品が正規のデモデータと確認できるものです。任意の CSV の名称や設定をデモへ変更しても、無料の実データ分析にはなりません。

4.2 ホームから試す

- **正規デモを試す**：架空データを使って分析の流れを確認します。
- **無料 CSV 互換性チェック**：ファイルの読み取り可否・列・日付・数値等を確認します。確認成功だけでは資産登録されません。
- **Store で購入**：Microsoft Store の購入手続へ進みます。購入後も利用権の確認結果を確認してください。

ホームに「Assetalyze — Unlimited Trial」という説明が表示されていても、現在の利用権は別の **「利用権：購入済み」等の状態表示** で判断します。

4.3 無料 CSV 確認の限界

「読込可能」は、単体 CSV の互換性確認結果です。全期間のデータ品質、他資産との期間重複、為替の充足、すべての分析条件での成功を保証しません。確認専用操作では、元 CSV の変更・アップロード、資産登録、最適化、実データの成績指標計算は行いません。

5. 画面構成

5.1 左側の主要画面

画面	主な用途
ホーム	操作の流れ、デモ、CSV 互換性確認、利用権の確認
計算環境	CPU/GPU、性能モード、環境診断
基本設定	資産・データ、入金・最適化、制約・コスト
詳細設定	出力、言語と通貨、外観、メンテナンス
実行	新規分析、停止、再開、進捗確認
結果サマリー	完了結果の選択、ダッシュボード、資産推移、詳細データ
自由配分	保存した固定配分セットの評価と比較
法的情報	免責・プライバシー・使用許諾・第三者ライセンス・同意情報
実行ログ	処理の進行やエラーの詳細確認
使い方／ガイド	製品同梱の説明文書を開く

各項目にある「?」は、その機能の説明を開きます。表で文字や列が収まらない場合は、横スクロール、列ページ送り、行の全項目表示を利用します。

5.2 画面内のタブ

画面	タブ／表示項目
基本設定	資産・データ／シミュレーション条件 1（投資・最適化）／シミュレーション条件 2（制約・コスト）

画面	タブ／表示項目
詳細設定	出力／言語と通貨／メンテナンス
結果サマリー	ダッシュボード／資産推移／詳細データ
結果サマリー → 詳細データ	表示項目で Vol 別詳細／期間別統計／配分比較を選択
自由配分	1 配分／ 2 実行／ 3 資産推移／ 4 詳細結果

「配分比較」は、結果サマリーの独立した第 4 タブではなく、「詳細データ」の表示項目です。また、自由配分の「詳細結果」と通常結果の「詳細データ」は別画面です。

6. 初回セットアップ

6.1 初回の流れ

1. 起動時の言語・評価通貨の確認で、使用する表示言語と通貨を選びます。
2. 法的文書を読み、利用する場合は画面の同意手順に従います。同意しない場合は終了します。
3. 計算環境が未確認なら「計算環境」へ進みます。
4.「計算環境を自動設定・確認」で診断します。
5.「基本設定へ進む →」から資産と条件を設定します。
6.「詳細設定」の出力条件を確認し、「実行」へ進みます。

現行の通常起動経路では、旧「初回かんたん設定 Wizard」を操作する必要はありません。言語・通貨の初回確認や法的同意の画面と、旧 Wizard は別です。

6.2 初めての確認には正規デモを使用する

ホームの「正規デモを試す」または基本設定のデモ操作で、架空データを使用できます。画面のデモ表示を確認し、実際の市場成績と混同しないでください。デモから通常データへ戻す操作では、保存されたデモ前の設定を使用する経路があります。戻った後は、資産・金額・評価通貨・期間を確認してから実データ分析を開始してください。

7. 計算環境

7.1 自動確認

開く場所：左メニュー → 計算環境

1.「使用する計算方法」で「自動選択（推奨）」を選びます。
2.「計算環境を自動設定・確認」を押します。
3. CPU、RAM、GPU、ランタイムの診断結果と推奨される方式を確認します。
4. 確認済みになったら「基本設定へ進む →」を押します。

GPU が利用できない場合は CPU による計算経路があります。GPU を明示選択しているのに診断に失敗する場合は、表示された確認やエラーに従って計算方法を見直します。GPU やランタイムなど重要な構成が変わると、再確認が必要になります。

7.2 計算方法

選択	意味・注意点
自動選択（推奨）	環境診断に基づいて利用可能な計算方法を選びます。
GPU	対応する NVIDIA GPU で配分候補の探索を行います。最終候補は CPU exact で再検証します。
CPU	CPU で計算します。GPU を使うための環境がなくても使用できる方式です。

GPU 処理は探索を高速化するための経路です。結果の最終確認を省略する「低精度モード」ではありません。自由配分の固定配分評価は CPU exact を使用し、通常の GPU 候補探索とは異なります。

7.3 性能設定

性能モードには「省電力」「標準（推奨）」「高性能」「最大性能」「手動」があります。性能設定は、batch、作業メモリ、並列数、途中保存の頻度を調整するものです。最適化の目的や最終候補の CPU exact 検証を変更しません。

項目	意味
CPU batch ／ GPU batch	一度に処理する候補のまとまり。大きくすると作業メモリも増えます。
CPU 並列数	CPU 側の並列処理数。
CPU ／ GPU メモリ上限	特に中央値計算で使う作業メモリの上限。RAM ／ VRAM の総量そのものではありません。
checkpoint 間隔	途中再開用の保存を行う候補数の間隔。
GPU device ID	利用する GPU の識別番号。環境診断と対応を確認します。
性能を測定	その PC の推奨値を求めるための測定。測定中は CPU ／ GPU を使用します。
標準推奨値をコピー	表示された標準推奨値を性能設定へ反映する操作。クリップボードへの文章コピーとは別です。

手動値が適切か分からない場合は、自動診断と性能モードを先に利用してください。「詳細・トラブルシューティング」には個別の環境確認・診断操作があります。Store 版では同梱ランタイムの診断経路が使用され、開発用 ZIP の環境構築手順をそのまま適用しません。

7.4 個別の診断

「詳細・トラブルシューティング」を開くと、現在の環境に応じて次の操作が表示されます。

操作	用途
環境診断のみ実行	性能を再測定する操作とは分けて、現在の実行環境を確認します。
MSIX 実行環境を再確認	Store 版が同梱する実行環境を確認します。別の開発用 Python へ入れ替える操作ではありません。
GPU 実行環境を再確認	対応ランタイムと NVIDIA GPU の状態を確認します。GPU 未検出時は、その状態に応じた表示になります。

これらは診断・測定結果を保存する場合があります。「画面を見るだけ」と「診断を実行する」は区別してください。

8. 基本設定

8.1 資産・データ

開く場所：基本設定 → 資産・データ

資産一覧で分析対象にチェックを付けます。通常最適化は **1〜10 資産** です。ライブラリへの登録件数と、同時に分析する資産数は別です。

操作	用途
すべて選択／すべて解除	対象チェックをまとめて変更します。実行時の 10 資産上限は別途守る必要があります。
市場データを自動取得	対応する公開データの取得・登録・再取得。第 11 章。
現金資産を追加	外貨現金を資産一覧へ追加。第 10 章。
CSV 資産を追加	手元の価格 CSV を確認して登録。第 12 章。
レバレッジ資産を作成	日次 CSV を基に仮想系列を生成。第 10 章。
選択資産を編集	通貨・分析対象・データ状態などを確認・変更。
選択資産を削除	登録資産の削除。分析結果フォルダの削除とは別操作です。

操作	用途
配当・分配金を設定	配当の入力方式と価格の意味を設定。
基準データを管理	為替・金利の自動取得と CSV を管理。
選択資産の CSV を書き出す	選択資産のデータを書き出します。

一覧では、資産名だけでなく、データ期間・配当設定・ソースも確認してください。期間が異なる資産を組み合わせると、使用できる共通期間が短くなることがあります。

8.2 データモード

表示	使用方法
ハイブリッド（推奨）	登録済みローカルデータを使い、不足時に対応する公式データ源を利用します。
ローカルのみ	計算データをネットワーク取得しません。必要な価格・為替・金利が揃っていることが前提です。
自動取得のみ	製品が対応している自動取得データを使用します。任意の銘柄を自動取得できる意味ではありません。
デモ	架空データを使う独立した確認用モードです。通常のデータ選択とは分けて表示されます。

「ローカルのみ」は、Microsoft Store の利用権確認まで通信しなくなるという意味ではありません。登録資産や基準データの対応状況は個別に確認してください。

8.3 条件設定へ進む

「シミュレーション条件 1（投資・最適化）」で金額・期間・探索方法、「シミュレーション条件 2（制約・コスト）」でリスク上限・費用・税・日付を設定します。入力は通常自動保存されますが、無効値や保存エラーの表示がある場合は確定していません。

9. 詳細設定

9.1 出力

開く場所：詳細設定 → 出力

出力レベル	内容
標準（推奨）	通常の結果表示・基本出力を使用し、個別ローリング期間の追加出力を抑えます。
詳細	個別期間のサマリー CSV を追加します。
すべて	個別期間サマリー・資産推移 CSV・グラフ・商品 100% 比較を含む出力を有効にします。
カスタム	保存する種類と期間範囲を個別に指定します。
出力しない	自動的な利用者向け CSV ／ HTML ／ PNG 出力を抑えます。UI 表示・再生に必要な内部結果まで存在しなくなる意味ではありません。

カスタムでは、個別期間の範囲（「出力しない」「最良・中央値・最悪」「最良 5・最悪 5」「全期間」）と、サマリー CSV、資産推移 CSV、個別期間グラフ、商品 100% 比較を選びます。商品 100% 比較は、1 資産へ 100% を配分した場合との比較出力です。**全期間の出力は数千ファイルになる場合があります。**出力設定は計算方式や最適配分そのものを変える設定ではありません。

9.2 言語と通貨・外観

表示言語、評価通貨、テーマ、ハイライト色を設定します。詳しくは第 23 章を参照してください。テーマ・色は見た目の設定であり、計算条件や警告・エラーの意味を変えません。

9.3 メンテナンス

ボタン	対象・注意点
利用者データを開く	実際の入力・結果の保存先を開きます。バックアップ前の場所確認に利用します。
アプリ状態を初期化	現在の設定・診断・性能測定・キャッシュ等を初期化します。利用者データ領域の入力と結果は保持しますが、登録情報を含む設定のバックアップは必要です。
全データを完全削除	現在のアプリ状態と管理下の利用者データを、二段階の確認後に削除します。結果 1 件のごみ箱移動とは異なる破壊的操作です。

通常のエラー対処に、いきなり初期化・全削除を使用しないでください。全削除にはアプリ内の復元機能がなく、途中で失敗して一部だけ削除済みとなる可能性もあります。現在のルート以外にある元 CSV・別の保存先・バックアップまで一律に消す操作ではありません。

10. 資産データ

10.1 価格と通貨

価格 CSV は「日付」と「価格」の系列として読み込みます。通常分析では月次系列を使用し、日次データは月内の最終観測値を使う経路があります。価格がどの通貨か、通常終値か調整後終値かを確認してください。

表示言語、ファイル名、通貨記号から通貨を推測して登録する操作ではありません。登録画面で通貨を明示します。異通貨資産には為替が必要です。

10.2 現金資産

評価通貨の現金は資産一覧に表示されます。「現金資産を追加」から外貨現金を追加できます。現金系列は、その通貨で名目利回り 0% の 1 通貨単位として扱います。外貨現金は評価通貨へ換算するため、必要な為替データが使用されます。現金の表示を、その通貨の預金商品の金利や手数料まで再現したものと解釈しないでください。

10.3 登録資産を編集・削除する

1. 資産一覧で対象行を選び、「選択資産を編集」を押します。
2. ソース・期間・通貨・分析対象・管理 CSV の状態を確認します。
3. 編集可能な項目だけ変更し、「保存」を押します。

CSV 資産の名称は設定・結果との対応を保つため固定です。自動取得・生成資産の通貨やソースは取得条件の一部なので固定される場合があります。登録後に管理 CSV が変更されると、分析が安全のため停止することがあります。「CSV 変更を承認」は内容を実際に確認した場合だけ使用します。

「選択資産を削除」は資産登録と管理コピーに関わる操作です。対象を確認し、単に次回の分析から外すだけならチェックを外してください。元の入力 CSV と管理コピーは別であり、元 CSV を保管しておくことが重要です。

10.4 配当・分配金

開く場所：基本設定 → 資産・データ → 対象資産 → 配当・分配金を設定

項目	意味
Price / Close（配当を別入力）	配当を含まない価格として扱い、別の配当条件を指定します。
Adjusted / Total Return（配当込み）	配当を価格に含むものとして扱います。別配当との二重計上に注意します。
配当なし	別途配当を加えません。
別 CSV（日付＋配当）	配当日と金額の CSV を指定し、確認して使用します。
年間配当利回り	年率の配当仮定を指定します。実際の支払履歴とは異なるモデル入力です。
価格 CSV 内の配当列（互換）	価格ファイル内の配当列を指定します。

配当 CSV では通貨、1 株・1 口あたりの金額、元の口数単位、権利落ち日・分割調整を確認します。譲渡益税とは別に、配当・分配金税率と受取後の扱いを条件 2 で設定します。配当を現金保有する方式には未調整価格が必要です。

10.5 仮想レバレッジ資産

開く場所：基本設定 → 資産・データ → レバレッジ資産を作成

1. 基準となる日次価格 CSV を選び、年月日・価格・通貨を確認します。
2. プリセットと生成資産名を選びます。
3. モデル、倍率、経費、資金調達条件等を確認します。
4.「作成」を押し、生成された資産を一覧で確認します。

項目	意味
プリセット	カスタム、汎用 2x、汎用 3x、TQQQ 専用（校正モデル）、QLD 専用（校正モデル）。
レバレッジ倍率	基準系列の日次変化へ適用する倍率。全期間の単純な倍率ではありません。
経費率／その他 drag	日次モデルで控除する年率の費用等。
資金調達	固定金利、または DFF（実効 FF 金利）を使用します。
固定金利／資金調達スプレッド	借入相当コストの仮定。
基準資産の配当利回り	基準資産の配当相当リターンの仮定。
校正 資金調達倍率／純キャリー／基準経費率	校正モデル固有の係数。対象資産・校正根拠を確認します。

生成されるのは**日次リセット型の仮想系列**です。TQQQ ／ QLD 専用プリセットも、実 ETF の NAV・市場価格履歴そのものではありません。専用プリセットが想定する NASDAQ-100 の USD 建て日次価格や DFF と異なる入力へ使っても、その ETF の再現とはなりません。

11. 公開市場データの取得

11.1 対応するデータ

開く場所：基本設定 → 資産・データ → 市場データを自動取得

カタログには World Bank の Gold、Silver、Brent、WTI、Copper、Natural Gas (US)、Aluminum、Platinum と、Federal Reserve の DGS10 から生成する米国 10 年国債系列があります。各行の提供元・利用条件・登録状況を確認できます。

米国 10 年国債は、金利系列から作る**近似トータルリターン指数**です。実際に売買できる特定 ETF や保有債券の価格履歴そのものではありません。S&P 500、NASDAQ-100、個別株・ETF を自由な銘柄検索で取得するカタログではありません。

11.2 取得・再取得の手順

1.「利用権：購入済み」を確認します。
2. カタログから対象を選び、出典・通貨・利用条件を確認します。
3.「選択を追加」を押します。
4. 取得が終わったら、基本設定の資産一覧に追加された名前・期間・ソースを確認します。
5. 分析に使う場合は対象へチェックを付けます。

取得したデータはローカルのキャッシュと管理コピーへ保存されます。再登録済みの系列を更新する場合は「選択を再取得」、または資産編集の「市場データを再取得」を使用します。再取得は管理データを更新する操作です。過去と同じ入力を保持したい場合は、先にバックアップしてください。

取得元の通信障害・データ形式変更・期間不足で失敗することがあります。製品の対応データが存在することと、外部サービスが常に利用可能であることは別です。利用権エラーの場合は、先に第 25・28 章を確認してください。

11.3 為替・金利の基準データ

「基準データを管理」では、為替ペアと金利を扱います。標準 8 通貨の為替は Federal Reserve H.10、DFF は金利の基準データに使用します。

操作	用途
為替データを追加	BASE（元通貨）／ QUOTE（相手通貨）を指定して CSV を登録。
CSV を登録 / 差し替え	対象系列の管理コピーを登録または更新。
CSV を書き出す	対象データを外部ファイルへ保存。
登録を削除	登録した基準データを削除。
自動取得に戻す	対応系列を自動取得の方式へ戻す。
更新	一覧の現在状態を確認。

為替の数値は **1 BASE あたり QUOTE** です。例として USD/JPY の 150 は 1 USD ＝ 150 JPY を意味します。登録確認画面で向きを誤らないでください。換算処理は逆方向や複数ペアを経由する経路にも対応しますが、登録 CSV の数値を自動的に意図どおり解釈し直すものではありません。

使用方式は自動取得、CSV のみ、Hybrid（CSV 優先＋自動補完）を対象に応じて使います。金利の数値 5 は 5%/年であり、0.05 を自動的に 5% と解釈しません。DGS10（10 年国債金利）と DFF は異なる系列です。

12. CSV 資産の登録

12.1 入力の準備

日付列と価格列を持つ CSV を用意します。迷う場合は、日付を `YYYY-MM-DD`、数値を小数点 `.`・桁区切りなしに統一した**別コピー**を作ると確認しやすくなります。

```
Date,Price
2024-01-31,100.00
2024-02-29,101.25
2024-03-31,99.80
```

これは形式だけの短い例で、分析可能な十分な年数を持つデータ例ではありません。価格の通貨は登録画面で指定します。

通常の CSV に加え、CSV.GZ ／ GZ、条件を満たす ZIP の読込経路があります。ZIP は CSV ／ TXT を 1 件だけ含む安全な構成を使用します。Excel ブックを CSV の代わりにそのまま登録する手順ではありません。

12.2 登録手順

1. 「基本設定 → 資産・データ → CSV 資産を追加」を押します。
2. 元 CSV を選びます。
3. 「CSV 読込結果を確認」で資産名・通貨・日付列・価格列を確認します。
4. 「読み込み・プレビュー」を押します。
5. 元 CSV と照合し、表示された年月日、価格、期間、行数、無効行・重複等を確認します。
6. 日付・期間の確認、価格・小数点・通貨・価格単位・注意表示の確認にチェックを付けます。
7. 「確認した内容で登録」を押します。
8. 一覧へ反映された資産を選び、必要に応じて配当設定を行います。

登録の直前にもファイルと確認条件を照合します。プレビュー後に入力を変えた場合は、再プレビュー・再確認が必要です。

12.3 読込項目

項目	説明
資産名	ライブラリ内で識別する名前。既存資産との重複に注意します。
通貨	JPY、USD、EUR、GBP、AUD、CAD、SGD、CNY から指定。自動推定しません。
日付列／価格列	日付と価格に使用する異なる列を指定。
文字コード	自動判定または UTF-8、UTF-16（BOM）、CP932、Windows-1252 ／ 1250、GB18030、Big5、CP949。
区切り文字	自動判定、カンマ、セミコロン、タブ。

項目	説明
先頭／末尾から除くレコード数	見出し前の説明や末尾の注記など、対象外とするレコード。
日付の順序	自動判定、年月日、日月年、月日年、民国年等を確認。曖昧な日付は元データで判断します。
小数点の形式	自動判定、点、カンマ。桁区切りとの取り違えを避けます。
銘柄	複数銘柄を含む対応 CSV で、読み込む 1 銘柄を指定します。

普段隠れている詳細項目は「詳細設定」で開きます。列名が空欄・重複、日付や数値形式が混在、列数不一致、曖昧な小数点・月日順等の場合は、推測して登録せず確認が必要です。価格欄に通貨記号や価格を意味しない%を含めないでください。

12.4 管理コピーと変更検知

登録後は元 CSV を直接編集しながら参照し続ける方式ではなく、確認済みの管理コピーと登録情報を使用します。現行の確認登録経路では、標準化した CSV と確認記録が作成されます。登録内容は `custom_assets.json`、管理コピーは利用者データの `input\custom_assets` 等に保存されます。

元 CSV は保管してください。管理 CSV を外部エディターで書き換えるとハッシュ不一致になることがあります。意図した更新は再登録・差し替え・確認画面を経由してください。確認記録の`.review.json` はデータの意味を自動保証する証明書ではなく、読込条件と利用者の確認を記録するものです。

13. 分析条件

13.1 入金と期間

開く場所：基本設定 → シミュレーション条件 1（投資・最適化）

入力項目	意味・条件
初期投資額	各評価窓の最初の観測月に 1 度だけ投入する金額。0 以上。
毎月の積立額	最初の観測月を含む各月に投入する金額。0 以上。
ローリング期間（最大 3 つ）	1〜100 年から重複しない年数を最大 3 つ選択。選択した期間を満たす履歴が必要です。

初期投資額と毎月積立額を両方 0 にはできません。初期投資額 0 なら積立のみ、毎月積立額 0 なら一括投資のみになります。金額は現在の評価通貨の単位です。

「10 年ローリング」は、1 つの 10 年間だけを見る操作ではありません。開始月をずらし、利用可能な多数の 10 年間を評価する意味です。

13.2 制約・コスト

開く場所：基本設定 → シミュレーション条件 2（制約・コスト）

入力項目	意味・注意点
Vol 上限の開始／終了／刻み	評価するリスク上限の範囲。上限ごとに候補を選びます。開始・刻みは正、終了は開始以上。
売買コスト（片道%）	シミュレーションで適用する片道の売買コスト率。
譲渡益税率（%）	実現利益に対するモデル上の税率。実際の税額計算の代替ではありません。
配当・分配金税率（%）	配当等に対する税率の仮定。
配当の扱い	受取後に再投資／現金で保有（再配分しない）／現金で保有 → 定期リバランス時に再配分。
リバランス	なし、定期、両方式の比較。
リバランス間隔（月）	定期リバランスを何か月ごとに行うか。1 以上。

入力項目	意味・注意点
開始日／終了日	使用する履歴範囲。画面の YYYY-MM-DD に従います。空欄は日付による追加指定を行わない状態。
ローリング開始月の刻み	次の評価窓の開始を何か月ずらすか。
実現損益の通算	同一リバランス内の実現損益を通算する設定。実口座のすべての税制を再現するものではありません。

13.3 指標に含まれる費用・税

最終資産額・XIRR は、リバランス売買コストと実現益税の控除後の値です。一方、TWR・Vol・最大 DD は、当月の積立・リバランス前の月次リターンから計算するため、当月のリバランス費用・税の直接の控除を含みません。過去の費用・税が後の残高へ与える影響まで無くなるという意味ではありません。

このため、Vol や最大 DD だけを「税・費用控除後の総合損益」として読まないでください。費用・税を含む成績は最終資産額や XIRR とあわせて確認します。

14. 最適化条件

14.1 配分刻み

「シミュレーション条件 1」で、配分刻みを 5%、10%、20%、25%、50% から選びます。合計 100% となる候補を評価します。細かい刻みほど候補数が増えますが、将来の成績が良くなる保証ではありません。

14.2 最適化指標

指標	選ぶ対象
平均最終資産 最大	各ローリング窓の最終資産を平均し、その値が最大となる候補。大きな値の窓の影響も受けます。
中央値最終資産 最大	各窓の最終資産の中央値が最大となる候補。窓数が偶数なら中央 2 値の平均を使用します。

いずれも Vol 上限の制約の下で選びます。XIRR 最大を直接の目的として選ぶ設定ではありません。中央値の探索は、平均より作業メモリや計算時間が多く必要になる場合があります。

14.3 単独と総合

- **各期間を単独最適化**：選択した年数ごとに、その期間に対する配分を選びます。
- **複数期間の総合最適化**：各期間の最良値を基準とする得点で、複数期間をまとめて評価します。主順位は平均得点、副順位は最低期間得点です。

両方を有効にできます。単独の 10 年配分と、10・20・30 年をまとめた総合配分は、目的が異なります。同じ Vol 上限でも配分が異なることがあります。

14.4 固定配分を試したい場合

自分で決めた配分は「自由配分」を使用します。現行の通常画面では、旧コード内に残る「指定した配分を評価」選択肢を操作する手順は案内しません。第 22 章を参照してください。

15. 分析の実行

15.1 新しく実行する

1. 計算環境の確認が完了していることを確認します。
2. 基本設定で対象資産、入力データ、通貨、入金、期間、最適化条件を確認します。
3. 詳細設定の出力レベルを確認します。
4. 「実行 → シミュレーション開始」を押します。
5. 実行名の確認画面で名前を指定します。空欄でも実行できます。名前は結果フォルダ名に付加されます。
6. 処理段階・進捗・経過時間・推定残り時間を確認します。
7. 完了後、結果サマリーを開きます。

新規実行は新しい結果フォルダを作ります。既存結果を同じ条件で再評価したい場合も、以前の結果を上書きする操作とは区別してください。推定時間は処理中の目安で、確約された終了時刻ではありません。

15.2 停止と再開

ボタン	用途
停止	処理の停止を要求します。エンジンが保存できる場合は、停止状態と再開情報を保存します。
続きから再開	停止時の設定との互換性が確認できる中断データを再開します。
停止時の設定に戻す	停止時の設定スナップショットを現在の条件へ戻します。現在の編集中条件を変更する操作です。
中断データをクリア	再開用の中断データを取り除く操作。完了結果 1 件のごみ箱移動とは別です。

停止直後に強制終了せず、保存・停止の案内を待ってください。再開はすべての処理を完全に保存点の 1 命令後から継続する保証ではなく、一部を再計算することがあります。現在の設定が停止時と一致しない場合は、再開できない理由を確認します。

異常終了の可能性がある場合は、対象を選ぶ復旧案内が表示される経路があります。無関係な結果を自動的に上書きする操作ではありません。対象と保存先を確認し、状態 JSON を手で書き換えて再開可にしないでください。

15.3 実行ログと終了

エラー時は「実行ログ」と表示されたメッセージを確認します。ログには入力名やローカルパスが含まれる場合があります。外部へ送る前に内容を確認してください。

通常はウィンドウの終了操作で閉じます。処理中に閉じる場合は、停止して終了するかの確認に従います。ファイル保存中の強制終了は避けてください。

16. 結果サマリー

16.1 結果を選ぶ

開く場所：左メニュー → 結果サマリー

1. 上部の「結果」プルダウンで完了結果を選びます。
2. 表示された result ID・実行名・条件を確認します。
3. 「ダッシュボード」「資産推移」「詳細データ」を切り替えます。

「更新」は結果一覧を読み直します。新しい分析の実行や外部市場データの再取得ではありません。別の結果へ切り替えた場合は、期間・リバランス・Vol 上限等の選択も確認してください。

16.2 上部ボタン

ボタン	何をするか
更新	結果一覧を再読込します。
選択結果を削除	選択中の完了結果フォルダ全体をごみ箱へ移します。第 21 章。
概要レポート	選択結果にある HTML の分析概要レポートを開きます。
結果フォルダ	その結果フォルダを開きます。
CSV 保存	「詳細データ」の選択表示項目に対応する表を保存します。資産推移の CSV は資産推移内のボタンを使用します。

16.3 ダッシュボードの読み方

表示 Vol・期間・リバランスを選んで、同じ条件の指標を比較します。

主な指標	意味
選択 Vol 上限	配分候補を選ぶ際に使用したリスク上限。実現 Vol そのものとは別です。
平均最終資産	対象ローリング窓の終了時資産額の平均。
平均 XIRR（年率）	入出金時点を考慮した各窓の年率収益率の集計。
実現 Vol 平均	過去データで評価した変動の大きさの平均。
平均最大 DD	各窓で生じた最大ドローダウンの平均。
最悪最大 DD	対象窓の中で最も厳しかった最大ドローダウン。
BEST ／ MEDIAN ／ WORST	最終資産額を基準にした代表窓。将来の最良・標準・最悪を予測するものではありません。

リスク・リターン散布図では、点をクリックして表示する Vol 上限を切り替えられます。資産配分の表示と指標カードがどの条件を示すかを確認します。「全て」の条件表示と個別条件の表示では、図に含まれる点数が変わります。

16.4 散布図のグラフ詳細

ダッシュボードの「グラフ詳細」で、XIRR × 平均 Vol 散布図を独立したウィンドウで確認できます。点付近へマウスを置くと、対象の Vol 上限・実現 Vol・XIRR 等を確認できます。ウィンドウのサイズ変更・最大化と PNG 保存を利用できます。

散布図は散布図として開きます。資産推移／ドローダウンの 3 表示モードへ切り替える画面とは異なります。

16.5 結果が 0 件の場合

結果がまだ無い場合や最後の結果を削除した場合は、正式な「結果なし」状態です。各タブへ移動しても、過去の KPI・グラフ・詳細行・result ID を残さず、結果が必要な操作は無効または安全な案内になります。

結果を新しく実行すれば、完了後に結果一覧と各表示へ戻れます。空の結果を補うために、`latest.json` へ架空のフォルダを記入する必要はありません。

17. 資産推移

17.1 表示する条件を選ぶ

開く場所：結果サマリー → 資産推移

1. 上部の結果で、確認する完了結果を選びます。
2. リバランス、Vol 上限、「使用する配分」、評価年数を確認します。
3. 最新／ BEST ／ MEDIAN ／ WORST ／期間指定のいずれかで表示範囲を選びます。
4. 期間指定では開始・終了を指定し、画面の「表示」で反映します。
5. 資産推移、累計投資元本、ドローダウンと指標カードを確認します。

範囲	意味
最新	利用可能な履歴の最新側にある評価期間。
BEST	選択配分・評価条件において最終資産が最良となる代表期間。
MEDIAN	最終資産が中央付近となる代表期間。
WORST	最終資産が最悪となる代表期間。
期間指定	開始年月と終了年月を指定して表示する期間。

ここでの表示は、**既に選ばれた固定配分を指定期間へ事後適用するシミュレーション**です。「その開始時点で、後から得た最適配分を知ることができた」という意味ではありません。最適化をやり直す操作と区別してください。

17.2 グラフと指標

- **資産評価額**：その月の評価額です。
- **累計投資元本**：初期投資とその時点までの積立の累計です。
- **評価損益**：評価額と元本との差を確認します。
- **ドローダウン**：それまでの高値からどれだけ下がったかを表します。
- **XIRR・実現 Vol・最大 DD**：第 13・30 章の意味と費用・税の違いに注意してください。

マウスをグラフへ置くと、年月と値を確認できます。通貨はその結果を保存した時点の評価通貨です。現在の設定画面で通貨を切り替えても、過去結果を別通貨で計算し直したことにはなりません。

17.3 独立した「グラフ詳細」

1.「グラフ詳細」を押します。
2.「表示」で **資産推移**／**ドローダウン**／**上下表示** を選びます。
3. 上下表示では、境界線をドラッグして上下の高さを変えられます。初期の目安は資産推移 75%・ドローダウン 25% です。最小表示高の制約があります。
4. リサイズ・最大化・復元で見やすい大きさにします。
5. マウスの縦ガイドとホバー値で、資産評価額・累計投資元本・ドローダウンを確認します。
6. 保存する場合は「PNG 保存」で通常の保存先を指定します。

表示サイズに応じて再描画します。同じ対象の詳細ウィンドウが既にある場合は、そのウィンドウを再利用し、押した時点の評価済みデータへ表示内容を更新して前面へ戻します。ビューアのモード切替・リサイズ・PNG 保存によって最適化を再実行しません。

PNG は表示モードに対応し、上下表示では現在の分割比率を反映します。数値を再利用したい場合は CSV を保存してください。

18. 詳細データ

18.1 表示の選択

開く場所：結果サマリー → 詳細データ

期間・リバランスを選び、「表示項目」を切り替えます。

表示項目	用途
Vol 別詳細	Vol 上限ごとの採用候補と成績を表で確認。
期間別統計	選択した配分に対する各ローリング期間の統計を確認。総合最適化では同じ固定配分の年数別 CPU exact 統計を確認できます。
配分比較	同じ期間・リバランス条件の下で、Vol 上限ごとの資産配分を比較。第 19 章。

18.2 全項目・列・コピー

幅が足りないときは横スクロールまたは「前の列」「次の列」で列を切り替えます。一部の列が現在見えていないことと、その値が存在しないことは別です。

「選択行の全項目」で行の詳細を開けます。対応する表では行のダブルクリック／ Enter でも詳細を開けます。全項目ダイアログで行を切り替え、表示ページ外の項目も確認できます。セル選択、Ctrl+C、表の CSV 保存を利用できます。

「資産推移」の CSV と、ここで表示中の統計表の CSV は異なります。保存前に表示項目を確認してください。

18.3 指標の読み違いを防ぐ

期間別の平均・中央値・最悪値は集計方法が異なります。例えば「平均最大 DD」は、全期間をつないだ 1 本の系列の最大 DD ではなく、評価窓ごとの最大 DD を平均した値です。総合得点は製品の選択ルールによる相対点で、収益率や利益確率ではありません。

19. 配分比較

開く場所：結果サマリー → 詳細データ → 表示項目「配分比較」

1. 比較する完了結果を選びます。
2. 期間とリバランス方式を揃えます。
3.「配分比較」を選びます。
4. Vol 上限ごとの列と、各資産の配分を比較します。
5. 表が広い場合は列ページ送りや横スクロールを使います。必要なら CSV 保存します。

この表は、同じ実行の異なる Vol 上限に対して選ばれた配分を見るためのものです。異なる実行条件の結果を無条件に同じ基準で優劣比較したり、将来の推奨配分と解釈したりしないでください。

自分で作った複数の配分を比較したい場合は、通常結果の配分比較ではなく「自由配分」を使います。

20. 結果の保存・レポート

20.1 自動保存される結果

通常分析では、実行ごとの結果フォルダに実行状態・設定・表示用データ等を保存します。出力レベルに応じて CSV、HTML、画像等も保存します。保存先は「結果フォルダ」で確認できます。

「出力しない」は、すべての内部結果を保存しない意味ではありません。画面表示・再生に必要なファイルは残ります。

20.2 保存ボタンの違い

場所	保存するもの
結果サマリー上部 → CSV 保存	詳細データで選択している Vol 別詳細／期間別統計／配分比較の表。
結果サマリー → 資産推移 → CSV 保存	表示中の期間・配分に対応する資産推移、元本、ドローダウン、資産別評価額等。
自由配分 → 3 資産推移 → CSV 保存	評価済みの比較セット別資産推移と実使用金額等。
自由配分 → 4 詳細結果 → CSV 保存	指標比較またはローリング統計の選択中の表。
グラフ詳細 → PNG 保存	現在の表示モードの画像。上下表示では分割比率も反映。
基本設定 → 選択資産の CSV を書き出す	入力資産データ。分析結果の統計表とは別。

通常の保存ダイアログで保存先とファイル名を確認します。同名ファイルへの上書きは、必要性を確認してから行ってください。結果表の CSV 出力は画面の狭さで一時的に隠れた列だけに限定されるものではなく、出力対象となる表の列を扱います。

20.3 概要レポート

「概要レポート」は、選択結果の 分析概要レポート.html を開きます。これは既に計算済みの統計をまとめたもので、新しい予測や最適化を実行しません。出力しない設定等で HTML が存在しない場合は案内が表示されます。

「平均 XIRR が最大」等の注目条件も、同一実行内の表から取り出した比較結果です。売買推奨や将来予測ではありません。HTML は外部スクリプト、CDN、Web フォント、分析タグを読み込まない構成です。

20.4 共有するとき

実行名、資産名、CSV やログには個人情報が含まれる場合があります。共有前に確認してください。公開データの出典・利用条件や、利用者が入手した CSV の権利条件は別途守る必要があります。

21. 結果の削除

21.1 削除範囲

開く場所：結果サマリー上部 → 選択結果を削除

対象は、一覧で選択した **個別の完了結果フォルダ全体** です。中にある CSV・JSON・HTML・グラフ・再生用データ等もまとめて移動します。

次のものをまとめて削除する操作ではありません。

- results 全体、results 直下の共有 `system` 領域
- 他の結果フォルダ
- 元 CSV、登録資産の管理 CSV、市場データ
- 設定、自由配分セット

21.2 操作手順

1.「結果」プルダウンで対象を選びます。
2. result ID・実行名・必要な出力が保存済みかを確認します。
3.「選択結果を削除」を押します。
4. 確認ダイアログの対象 ID・フォルダ・削除範囲を確認します。
5. 続行する場合だけ、ごみ箱への移動を確定します。やめる場合は「キャンセル」です。
6. 更新された結果一覧と現在の表示を確認します。

計算処理中・削除処理中、選択対象がない場合、安全性を確認できないフォルダ等では操作できません。完了していない実行の停止・再開とは別機能です。

21.3 Windows ごみ箱と安全性

Windows 標準のごみ箱へ移動します。**ごみ箱への移動が失敗したとき、永久削除へ切り替えるフォールバックはありません。**失敗の案内がある場合は、対象フォルダと保存先の状態を確認してください。

親ルート、共有 system、ルート外、パストラバーサル、リンク／ジャンクション等の reparse point を含む危険な対象は拒否します。安全確認を回避するためにフォルダや状態 JSON を書き換えないでください。

ごみ箱を空にするまでは、Windows のごみ箱の機能で復元できる場合があります。Assetalyze 内に結果削除専用の「元に戻す」ボタンはありません。復元可否は Windows 側の保存状態にも依存します。復元後は「更新」で一覧を確認し、必要な結果を明示的に選んでください。削除前の latest 選択まで自動で戻るとは限りません。

21.4 latest と最後の 1 件

削除対象が latest から参照される場合、残っている完了結果へ参照を切り替えます。最後の 1 件なら、削除済みフォルダを指す latest ／ backup を残さず、結果なし状態にします。

結果 0 件でも、ダッシュボード・資産推移・詳細データ・配分比較への移動、通常終了・再起動が可能です。結果関連ボタンは、無効化または結果がない旨の案内になります。旧グラフ・旧 KPI を現在の結果として表示する状態ではありません。

22. 自由配分

22.1 通常の最適化との違い

開く場所：左メニュー → 自由配分

自由配分は、保存した固定配分を CPU exact で評価する機能です。最適な配分を自動探索しません。基本設定で付けた資産チェックとは独立して、現在の資産ライブラリを使用します。1 セットで 0% より大きい配分を持つ資産は最大 10 資産です。

22.2 「1 配分」でセットを作る

1.「配分作成（基本設定で追加した資産を表示）」の表で、使用する資産へ割合を入力します。
2. 使用しない資産は 0%、合計を 100% にします。
3. 初期投資額・毎月積立額を入力します。各セットで別の金額を持てます。両方 0 にはできません。
4. リバランスと間隔（月）を設定します。
5. セット名を指定し、「比較セットに追加」を押します。
6. 右の「比較用配分セット」で、評価するセットの「比較」にチェックを付けます。
7.「次へ：実行」を押します。

操作	動作
現在の最適配分を読込	結果サマリーで選択中の採用配分を編集欄へ読み込みます。使用できる結果が必要です。
クリア	配分入力をクリアします。保存済みセット一覧全体の削除ではありません。
配分詳細	選択セットの資産名・配分値を詳細ダイアログで確認します。
編集	選択セットの配分、金額、リバランス、間隔、名前を編集欄へ読み込みます。
変更を保存	編集対象の同じセットを更新します。
キャンセル	編集内容を保存せず、新規作成の状態へ戻ります。
複製	選択セットを別のセットとして複製します。
↑ 上へ／ ↓ 下へ	セット順を変更します。
選択を削除	選択した配分セットを削除します。通常分析の結果フォルダ削除とは別です。

一覧の行を選んだだけでは、編集欄は書き換わりません。編集する場合は「編集」を押します。セットの保存は設定ファイルへ行います。同じ保存内容なら不要な書込みや backup 回転を行わず、評価開始だけで保存済みセットを回転保存しない処理になっています。

22.3 「2 実行」で比較する

1. 評価対象に意図したセット名が表示されていることを確認します。
2. 共通の「評価年数」を選びます。
3. 必要なら「ローリング統計も計算する」を有効にします。
4. 表示期間を最新／ BEST ／ MEDIAN ／ WORST ／期間指定から選びます。
5. 期間指定の場合だけ、開始・終了年月を指定します。
6.「評価を実行」を押します。完了すると「3 資産推移」へ移動します。

この評価年数は比較セット全体で共通です。**基本設定のローリング期間とは独立**して、通常評価、ローリング統計、BEST ／ MEDIAN ／ WORST に使用します。利用可能なデータによって調整が表示される場合は、実際に採用された年数を結果で確認してください。

価格・評価通貨・売買コスト・譲渡益税・損益通算等には、現在の基本設定で指定した共通条件を使用する経路があります。セットごとに指定する金額・配分・リバランス条件とは分けて確認してください。

表示期間や入力条件を変更しただけでは、既存評価結果を書き換えません。再評価が必要な案内を確認し、「評価を実行」で反映します。独立した「表示期間を反映」ボタンはありません。

22.4 「3 資産推移」

セットごとの資産推移とドローダウンを表示します。上の資産推移を大きく、下のドローダウンを補助的に表示します。ホバーでセット名・年月・値を確認できます。

「CSV 保存」は評価済みの系列を保存します。各セットに対応する初期投資額・毎月積立額も含め、実際に評価した条件を確認できます。「グラフ詳細」で 3 モード、分割変更、リサイズ、PNG 保存を利用できます。

22.5 「4 詳細結果」

「表示する結果」で切り替えます。

選択	表示内容
指標比較	セット別の実使用金額、評価期間、リバランス、最終資産、評価損益、XIRR、最大 DD、実現 Vol、売買コスト、税額等。
ローリング統計	セット別の窓数、平均・中央値最終資産、BEST ／ WORST と期間、平均 XIRR・Vol・最大 DD 等。

「CSV 保存」は現在表示している種類へ対応します。ローリング未計算なら、実行タブで有効にして再評価する案内となり、その統計の CSV 保存は無効です。行ダブルクリック／ Enter で全項目を確認できます。通常結果の「選択行の全項目」と同じ常設ボタンがあるわけではありません。

22.6 保存と評価済み条件

配分セットは `free_allocation_sets.json` に保存され、再起動後も読み込めます。現行のセット形式は schema 5 で、旧形式の不足項目を補う読込処理があります。0 として保存した金額と、項目自体が存在しない状態は区別します。利用者が schema 番号を手で変更する必要はありません。

一方、**自由配分の評価結果そのものを、終了後にそのまま再表示する機能はありません。**必要な表は CSV、グラフは PNG へ保存してください。配分セットの保存と、評価画面の永続保存を混同しないでください。

評価後に入力欄を変更しても、既存の表・CSV・グラフ詳細は評価時の実使用条件を参照します。変更後の条件で比較するには再評価します。

23. 言語・通貨

23.1 表示言語

開く場所：詳細設定 → 言語と通貨

対応する 8 言語は次のとおりです。

表示	言語コード
日本語	ja-JP
English	en-US
Deutsch	de-DE
Français	fr-FR
Español	es-ES
Italiano	it-IT
简体中文	zh-CN
繁體中文	zh-TW

表示言語を変更すると、UI の見出し・選択肢・案内等を切り替えます。利用者が付けた資産名・実行名、外部 CSV の列名・内容を自動翻訳する機能ではありません。

23.2 評価通貨

JPY ／ USD ／ EUR ／ GBP ／ AUD ／ CAD ／ SGD ／ CNY を選べます。表示言語と評価通貨は別々に選択します。

重要：入力金額は選択中の評価通貨の単位です。通貨切替で金額を自動換算しません。例えば入力値 100,000 のまま JPY から USD へ変えると、入力単位が USD になります。意図した金額を確認し直してください。

異通貨資産は、利用可能な為替ペアから換算経路を求めます。過去結果は保存時の評価通貨で表示し、現在の通貨設定へ自動再計算しません。結果を比較するときは通貨を揃えた条件か確認します。

23.3 外観

テーマは「Windows の設定に合わせる」「ベーシック（ライト）」「ダーク」を選べます。ハイライト色は候補色や「その他の色…」、HEX 入力と「適用」で変更する経路があります。

外観は保存されて反映されます。表示色は読みやすさのため調整され、警告・エラー色や計算条件は変えません。Windows のハイコントラストが有効な場合は、その設定を優先し、色選択が一時的に無効になる場合があります。

24. データ保存とバックアップ

24.1 2 種類の保存領域

領域	通常の場所	主な内容
利用者データ	Windows の Documents 配下の `PortfolioOptimizer`	`input` 内の管理 CSV・基準データ、`results` 内の分析結果。
Package private state	`%LOCALAPPDATA%\Packages\YuInvestudy.AssetalyzePortfolioOptimizer_0h2wwagrk5ve1\LocalCache\`	設定、資産登録情報、自由配分セット、履歴情報、診断ログ等。

Documents が移動・同期設定されている場合や、その場所を安全に利用できない場合は、実際の保存場所が異なります。代替先として%USERPROFILE%\PortfolioOptimizer を使用する経路があります。「メンテナンス → 利用者データを開く」等で**実際の場所**を確認してください。製品名が Assetalyze でも、内部の保存フォルダ名は PortfolioOptimizer です。

24.2 主なファイル

ファイル／フォルダ	役割
settings\user_settings.json ／.bak	画面・分析条件・言語・通貨等の設定。
settings\custom_assets.json	登録資産名、通貨、管理コピーへの対応、出自等。
settings\free_allocation_sets.json ／.bak	自由配分セット。
settings 内の基準データ・配当設定・同意情報	入力の解釈、基準系列、文書確認等の情報。
input\custom_assets	登録・生成した資産の管理 CSV と確認記録等。
input\reference_data	為替・金利等の登録管理データ。
results\< 個別結果フォルダ >	その実行の CSV ／ JSON ／ HTML ／画像／再生用データ等。
results\< 個別結果フォルダ >\system	実行状態・実行設定・内部結果等。個別結果に属する領域。
results\system\latest.json ／.bak	最新完了結果を指す管理情報。共有領域。
private state 内の data\cache・data\metadata 等	公開データや計算のキャッシュ、入力・診断の管理情報。
private state 内の t	起動ごとの所有情報付き一時作業領域。

旧形式の結果や latest を読む互換経路がありますが、手作業で新旧フォルダ構造を混ぜないでください。.bak の扱いはファイルごとに異なります。「常に直前世代が保存される完全な履歴」ではありません。

24.3 latest の意味

latest.json は結果本体ではなく、完了結果の場所等を指すファイルです。これだけをバックアップしても、グラフ・表・再生用価格は保存できません。

通常分析の完了、latest 対象の削除等ではポインターが更新されます。最後の結果を削除した後は、存在しないフォルダを指すポインターを残さない処理になります。結果なしは正式な状態なので、手で空の結果フォルダを作らないでください。

24.4 設定の自動保存

有効な設定変更は自動保存されます。保存に失敗した場合は案内を確認してください。環境診断や性能推奨値の確認によって、関連する性能情報が保存されることもあります。

結果表示用の「現在の条件」、保存された「実行時の条件」、自由配分の「セット条件」は役割が異なります。過去結果の条件を変えたい場合は、元結果を直接書き換えず、新しい分析を実行します。

24.5 バックアップ手順

1. 分析等が終了したことを確認し、アプリを通常終了します。
2. 実際の利用者データルート全体を、新しいバックアップ先へコピーします。個別結果の system も含めます。
3. 設定・登録情報も必要なら、現在 PFN の private state を別区分で保管します。
4. アプリ管理外にある元 CSV も保管します。
5. ファイル数・サイズ、重要ファイルの SHA-256 等でコピーを照合します。結果フォルダと latest を同じ時点で保存します。
6. アプリ版、日時、保存先、評価通貨などの復元時に必要な情報を記録します。

本書は、private state 全体を別 PC・別ユーザーへコピーすれば同意や利用権まで復元できるとは保証しません。利用権は Microsoft Store が管理します。復元前は現在のデータも別途保存し、アプリを停止した状態で対象・互換性を確認してください。既存ファイルへ無条件に古いバックアップを上書きしないでください。

24.6 キャッシュ

キャッシュは取得・計算の再利用を目的とします。公開データのキャッシュには更新期限による再取得経路があります。キャッシュがあることは、将来の無通信利用やデータ提供元の恒久利用を保証しません。

管理 CSV・正式結果・登録情報を、すべて「再生成できるキャッシュ」と考えて削除しないでください。GPU の JIT キャッシュや一時ファイルも、製品が所有を確認できる範囲で管理します。

25. Microsoft Store ライセンス

25.1 状態表示

表示	意味
購入済み	Store API により有効な非 Trial 利用権を確認した状態。
Trial（期限なしの無料体験）	無料体験の利用権状態。利用範囲は第 4 章。
無効なライセンス	Store が返した有効性・有効期限等により、有効な利用権として扱えない状態。
ライセンスを確認できません	照会未完了、照会失敗、更新が必要等の状態。未購入と断定する意味ではありません。

製品は Windows の Store API を通じて、現在のパッケージに対する利用権を確認します。自作のライセンスキーを入力する方式ではありません。

25.2 購入・再取得

1. ホームの利用権表示を確認します。
2. 購入する場合は「Store で購入」から Microsoft の画面へ進みます。
3. 購入が完了しても、製品が購入済みを確認するまでは実データ操作が解放されない場合があります。
4. 必要なら利用権のダイアログで「ライセンスを再取得」を使用します。

キャンセルした場合は購入完了とはなりません。照会失敗時は購入済みへ推測変換せず、保存データを保持したまま案内します。正規デモと CSV 互換性確認は、購入確認ができない状態で案内される確認手段です。

25.3 ネットワーク・キャッシュ

Store 側の永続／オフラインキャッシュは Windows が管理し、アプリ側の確認結果は短期間のプロセス内状態です。起動直後に未確認表示が出た場合は、その後の確認結果を見てください。購入後の永久オフライン動作や、すべての Windows ／ Store 状態で通信不要になることは保証しません。

ライセンスエラー時に、設定 JSON を書き換えて Purchased を作る、認証コードを変更する、ライセンスファイルを他環境からコピーする等の操作は行わないでください。

26. プライバシー

26.1 PC 内で扱う情報

製品は、選択 CSV・登録資産・分析条件・結果・ログ・設定・同意情報・計算環境情報を PC 内で処理します。CPU、RAM、NVIDIA GPU ／ VRAM、ドライバー等の診断や、性能推奨値を同じ PC で再利用するための情報を保存する経路があります。

アプリ独自のアカウント登録、広告識別子、利用状況分析、クラッシュ情報の自動送信は実装されていません。ただし、ログ・実行名・ファイル名に利用者自身の情報が含まれる可能性があります。

26.2 外部との通信

- 公開データを取得する場合は、対応する World Bank ／ Federal Reserve の公式ホストへ通信します。
- Store 利用権照会・購入は Microsoft Store の仕組みを使用します。
- 計算データ取得の「ローカルのみ」と、Store 利用権確認の通信は別です。
- 製品は分析 CSV 内容・投資設定・計算結果を市場データ取得先へアップロードする処理を持ちません。

通信先には IP アドレスや通常の HTTP 情報等が伝わります。Microsoft やデータ提供元の処理には、その提供元の規定が適用されます。Documents が OneDrive 等で同期される場合は、OS・同期サービスの設定にも従います。

26.3 データの保護と共有

アプリがすべての CSV・結果を暗号化するわけではありません。Windows アカウント、ディスク、バックアップの管理も必要です。サポートへログを送る場合は、パス・ファイル名・CSV 内容等を確認してから、必要な範囲だけを選んでください。

プライバシー文書は「法的情報 → プライバシー / Privacy」で確認できます。本書は新しいプライバシー契約や外部サービスの保証を追加しません。

27. 注意事項・免責

27.1 分析の限界

- 過去の最適配分が将来も有効とは限りません。
- ローリング評価やグリッド探索にも過学習の可能性があります。
- 税・売買コスト・配当・レバレッジはモデル上の仮定であり、実口座の全条件・約定・制度を完全には再現しません。
- 指数や近似国債・仮想レバレッジの系列と、実際に売買できる商品は同じとは限りません。
- デモは架空データであり、実績や将来予測ではありません。
- 「最適」「BEST」「総合得点」は、その入力・条件・選択ルール内での表現です。

Assetalyze は金融商品の取得・保有・売却を推奨せず、投資・税務・法的助言を提供しません。将来の利益、元本、安全性、結果の完全性・正確性を保証しません。入力の正確性と利用権を確認し、必要に応じて資格のある専門家へ相談してください。

27.2 法的情報画面

ボタン	内容
免責事項 / Disclaimer	製品の免責文書。
プライバシー / Privacy	データの取扱い。
使用許諾 / EULA	製品に同梱する使用許諾文書。
第三者ライセンス	使用している第三者部品の通知。
同意内容を表示	記録された文書確認内容。
同意を撤回	同意を撤回して終了する手続。次回通常利用には再同意が必要です。

同意の撤回だけでは、入力・結果・設定・キャッシュを削除しません。第三者の権利表示や通知を取り除いて再配布しないでください。本書は製品内の法的文書を置き換えず、新しい販売条件・返金条件を定めません。

28. トラブルシューティング

28.1 まず記録すること

製品バージョン、発生画面、直前の操作、エラーメッセージ、選択 result ID、使用通貨・期間を記録します。必要なら実行ログを確認します。入力や結果を消す操作より先に、保存先とバックアップを確認してください。

症状・表示	確認すること／安全な対処
購入済みなのに利用できない	「利用権」の表示を確認。Store で購入したアカウントと接続を確認し、利用権ダイアログの再取得を使用。設定削除やライセンス偽装を行わない。
`fetch:real_or_unverified_data`	外部データ操作のライセンス拒否を示す。取得先の障害と決めつけず、先に購入済み確認を行う。
`analyze:real_or_unverified_data` 等	実データ操作の許可を確認できていない。正規デモと自分のデータを区別し、利用権を確認。
CSV の価格列を自動判定できない	日付列／価格列を元 CSV と照合して明示。通常終値と調整後終値の両方がある場合は意味を選ぶ。
日付の月日順／小数点が曖昧	詳細設定で形式を確認。別コピーを ISO 日付・小数点 `.`・桁区切りなしへ整理する。
CSV に複数銘柄がある	詳細設定で対象銘柄を指定して再プレビュー。

症状・表示	確認すること／安全な対処
読込可能だが分析ができない	他資産との共通期間、必要年数、為替・金利、選択数、購入済み利用権を確認。
管理 CSV が登録後に変更された	実際の変更内容を確認。意図した更新なら確認・差し替え経路を使用。ハッシュだけを手で書き換えない。
為替が不足／換算経路がない	資産通貨と評価通貨を確認し、基準データに必要ペアを用意。レートの向きと期間も確認。
公開データ取得に失敗	接続、データモード、対応カタログ、提供元を確認。対応外銘柄は CSV を用意する。
GPU が利用できない	計算環境で再確認し、診断内容を確認。CPU 経路を使用する場合は計算方法を明示的に確認。
計算が長い／メモリ不足	資産数・配分刻み・期間数・中央値・出力量を確認。性能設定を診断推奨値へ見直す。条件変更は別の分析になる点に注意。
続きから再開が無効	停止時設定との互換性、停止保存結果、再開不可の理由を確認。「停止時の設定に戻す」は現在条件を変える。
結果一覧が空	正しい保存先か、「更新」で再読込できるか確認。最後の結果削除後なら正常な結果なし状態。
概要レポートが開けない	その結果に HTML があるか確認。「出力しない」では HTML 概要が作られない。画面や CSV を使用。
資産推移 CSV を保存できない	先に有効な結果の資産推移を表示。保存先の権限・空き容量・他アプリのファイル使用を確認。
ローリング統計が空	自由配分の「2 実行」でローリング統計を有効にして再評価。
入力を変えたのにグラフが古い	既存の評価済み snapshot を表示している可能性。自由配分は再評価し、通常結果は新規分析と表示用期間変更を区別。
ごみ箱移動に失敗	フォルダ使用中・保存先・安全性検査の案内を確認。永久削除へ切り替えない。
表示が狭い	最大化、スクロール、列ページ送り、行詳細、独立グラフ詳細を使用。
起動時の文書検証／初期化エラー	メッセージを保存し、現在の設定や結果を初期化せず、正式な配布物とサポート案内を確認。

28.2 結果なし状態と障害を区別する

結果 0 件では、グラフや KPI が出ないこと自体は正常です。一方、未処理例外や「PowerShell launcher failed」等が表示された場合は正常な結果なし表示ではありません。表示内容を記録し、保存データを保全して調査する必要があります。

28.3 強制終了・初期化を急がない

処理中なら通常の「停止」を先に使い、保存完了の案内を待ちます。応答が戻らない場合も、手作業で結果や設定を削除して原因を隠さないでください。「アプリ状態を初期化」「全データを完全削除」は、ログ確認や通常の画面遷移とは性質が異なります。

29. アンインストール

29.1 先にバックアップする

1. 必要な結果の CSV ／ HTML ／ PNG を確認します。
2. アプリを通常終了します。
3. 第 24 章の利用者データ全体と、必要な private state・元 CSV をバックアップします。
4. Windows のインストール済みアプリから Assetalyze をアンインストールします。

29.2 残るもの・消えるもの

場所	通常の MSIX アンインストールでの扱い
インストール済み製品・同梱ランタイム	削除されます。
現在 PFN の package private state	設定・登録情報・キャッシュ等を含め、通常削除されます。
Documents 内または代替 UserDataRoot の入力・結果	package private 領域外なので、通常のアンインストールでは削除しません。
利用者が別の場所へ置いた元 CSV・書き出しファイル・バックアップ	アプリのアンインストールが一括削除する対象ではありません。

管理 CSV が Documents に残っても、対応する資産登録情報が private state にあった場合、再インストール後のライブラリが自動的に同じ状態になるとは限りません。入力だけでなく設定・登録情報も保管してください。

Microsoft Store の利用権とローカルデータは別です。バックアップファイルを戻すことで Store 購入状態を作る仕組みではありません。

29.3 データも消したい場合

アプリ管理下の現在データを完全に削除する操作は「詳細設定 → メンテナンス → 全データを完全削除」です。アンインストール前に対象範囲を確認する必要があります。これは Windows ごみ箱を使う結果 1 件の削除とは違い、アプリ内で元に戻せません。元 CSV・過去の別保存先・バックアップが対象外なら、それらは別途確認が必要です。

30. 用語集

用語	本製品を読むための説明
資産配分／ポートフォリオ	資金をどの資産へ何% ずつ配分するかを表す組合せ。
最適化	定めた候補・目的・制約の中から、評価値が最もよい候補を選ぶ処理。将来の最良選択を保証しません。
配分グリッド	5% 刻み等、あらかじめ決めた刻みで作る配分候補の集合。
リスク・リターン	変動や下落の大きさと、得られた収益の関係。ここでは過去データとモデルによる統計です。
ボラティリティ／ Vol	リターンの変動の大きさ。数値が大きいほど上下のばらつきが大きいことを表し、損失額そのものではありません。
Vol 上限	最適化で候補を絞るための条件。実際に評価した Vol とは区別します。
実現 Vol	対象の履歴・評価期間で算出した変動の大きさ。将来の変動予測ではありません。
ドローダウン／ DD	それまでの高値からの下落率。
最大ドローダウン／最大 DD ／ MDD	評価期間中の最も大きなドローダウン。将来の損失上限ではありません。
XIRR	入出金の日付と金額を考慮して求める年率の内部収益率。毎月積立など、資金投入の時期が異なる場合を評価します。単純に総利益を年数で割る値ではありません。
TWR	資金投入・引出しの影響を分けて、期間のリターンをつないで見る時間加重収益率。XIRR とは目的が異なります。
累計投資元本	初期投資額と、その時点までの積立額の合計。
最終資産	評価期間の最後の資産評価額。元本に対する利益だけを示す値ではありません。
評価損益	評価額と元本との差。
平均	対象値の合計を件数で割った値。極端な値の影響も受けます。
中央値	値を順に並べた中央の値。偶数件の場合は中央 2 値の平均。
ローリング窓	開始時点をずらして作る、同じ長さの評価期間。

用語	本製品を読むための説明
窓数	評価に使えたローリング期間の数。
BEST ／ MEDIAN ／ WORST	最終資産額を基準に選ぶ代表期間。将来のシナリオ確率ではありません。
リバランス	指定配分へ近づけるため資産を売買して割合を調整すること。費用・税の条件が結果に影響します。
Total Return	価格変化に配当等を含めたリターン。入力が何を含むか確認が必要です。
CPU exact	CPU の float64 による数値評価・確認経路。「現実を誤差なく再現する」という保証ではありません。
GPU 探索	GPU で候補の評価・抽出を高速化する経路。最終候補の CPU 確認とは役割が異なります。
batch	一度に処理する候補のまとまり。
snapshot	ある時点の設定や評価値を固定したデータ。後の入力変更と区別して保持します。
cache ／キャッシュ	取得・計算結果を再利用するための保存。正式結果・登録情報すべての総称ではありません。
checkpoint	途中再開に使う保存点。ここでは計算エンジンの再開情報を指します。
latest	最新完了結果を指す管理情報。結果本体ではありません。
result ID	結果を識別する情報。削除前や問い合わせ時の確認に使用します。
schema	保存 JSON 等の構造の版。通常はアプリが管理し、利用者が編集しません。
SHA-256	ファイル内容から求めるハッシュ。コピーの同一性や登録後変更の確認に使います。データの経済的正しさは証明しません。
MSIX ／ PFN	Windows のアプリパッケージ形式と、そのパッケージファミリーの識別情報。保存領域と更新の対応にも関係します。
Purchased ／ Trial ／ Unknown ／ Invalid	Store 利用権の状態。第 25 章を参照してください。

本書の範囲：1.0.55.0 の受入済み Source と現行の通常 UI を基準とします。コード中に残る旧 Wizard、通常 UI へ追加されていない検証ページ、開発用コマンドやテスト用操作は、現行の利用手順へ含めていません。外部サービスの将来の提供状態、全 PC の性能、別バージョンの機能は保証対象として記載していません。